

高度産業科学技術研究所 服部 正教授  
日本機械学会フェローに認定される

高度産業科学技術研究所 松井真二

2010年3月30日付けで、高度産業科学技術研究所 服部 正教授は日本機械学会よりフェローに認定されました。フェローの称号は機械工学・機械技術分野に顕著な功績をなし、社会および日本機械学会の発展に顕著な貢献をなしたものに与えられ、日本機械学会員の地位向上・国際活動をより円滑にし、あわせて日本機械学会のより一層の活性化を図ることが期待されます。

服部教授は「微細化へのあくなき挑戦」をモットーに、これまで微細3次元加工技術を基盤としたマイクロセンサ・アクチュエータなどのマイクロマシン・MEMS等一連の研究を進めてこられ、今日のマイクロ構造体作製技術の基礎を築かれました。現在、放射光施設「ニュースバル」による微細3次元加工技術(LIGAプロセス)とその応用製品の開発に邁進されています。昨年9月にはLIGAプロセスを応用した超微細な反射ドットを持つ導光板を用いたLED照明装置が生産・販売され、量産化を達成しました。その間、システム化技術の重要な要素である異種材料接合技術として水素結合を用いた新技術により、日本機械学会論文賞(1999年)、科学技術庁注目発明賞(1997年)を始め多数の賞を受賞されました。また、これらの貢献により、2006年には日本機械学会機素潤滑設計部門業績賞を受賞されました。今回のフェローの称号はこれらの大きな業績と、我が国の機械工学・工業の発展に大きな貢献をされた結果といえます。

今後、これまで以上にナノマイクロ化への流れが大きくなると予想できますが、現在進めているLIGAプロセスによるJST先端計測プロジェクトのX線イメージング回折格子など、これまでになくナノマイクロシステムデバイスの実用化が大いに期待されます。

(まついしんじ)

